

能代川災害復旧助成事業 小阿賀野川・能代川河川災害復旧等 関連緊急事業

概要

7.15～16梅雨前線豪雨

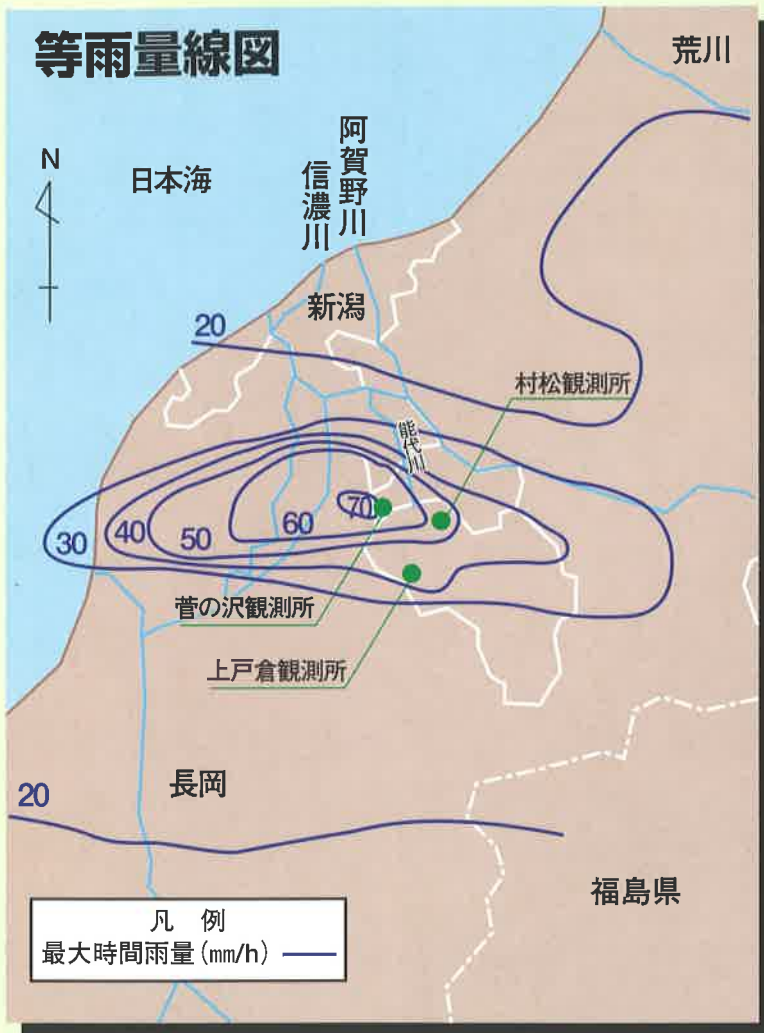


① 新潟日報 H12.7.17掲載

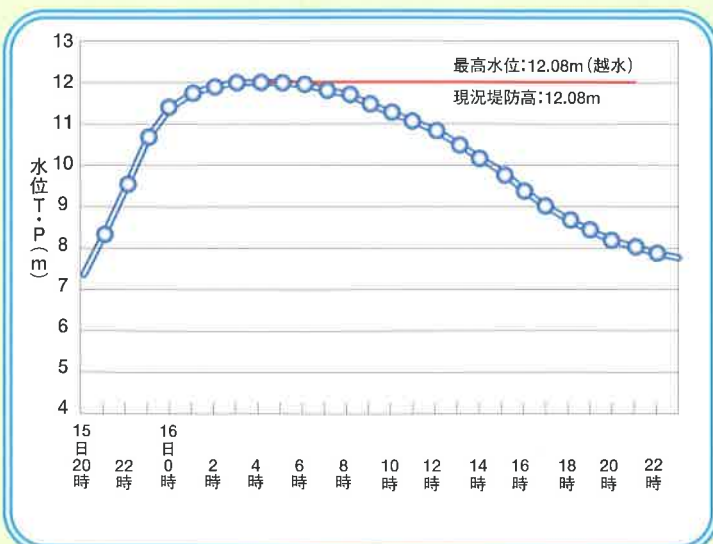
国土交通省北陸地方整備局
新潟県土木部

雨量及び出水状況

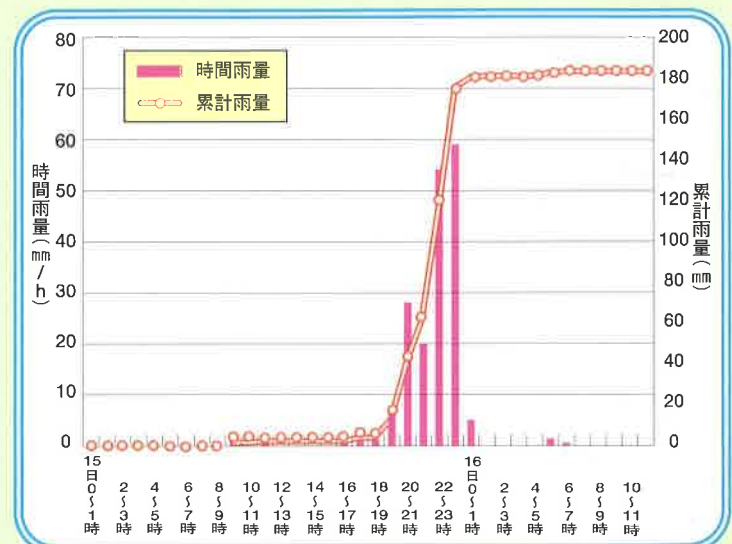
新潟県中越、下越地方に停滞していた梅雨前線は、急激に活発化し、7月15日夜半から16日未明にかけて下越地方を中心に局地的な短時間の集中豪雨をもたらしました。特に降雨量は流域の南部に多く、降り始めからの総雨量は、菅の沢観測所で168.0mm、上戸倉観測所で140.0mm、村松観測所で182.0mmを記録し、そのほとんどが7月15日20時から16日0時に集中しています。また、1時間の雨量は、菅の沢76.0mm/hr（15日23時）、上戸倉46.0mm/hr（15日24時）、村松59.5mm/hr（15日24時）と非常に強い雨が降りました。



五百地水位局



村松



被災状況

災害の特徴

- ①村松観測所（气象台）において昭和49年観測開始以来既往最大の降雨（最大24時間）を記録しました。
- ②越水による周辺人家への床上、床下の浸水により甚大な被害が発生しました。
- ③洪水による護岸の欠壊や、川底の低下に伴う河川施設への被害が発生しました。



●7月15日～16日 梅雨前線豪雨による能代川流域浸水被害状況●

被災市町村名	浸水面積 (ha)			床上浸水 (戸)			床下浸水 (戸)		
	宅地	農地	計	住家	事業所等	計	住家	事業所等	計
五泉市・村松町	230	745	975	66	106	172	487	48	535

事業概要

事業の方針

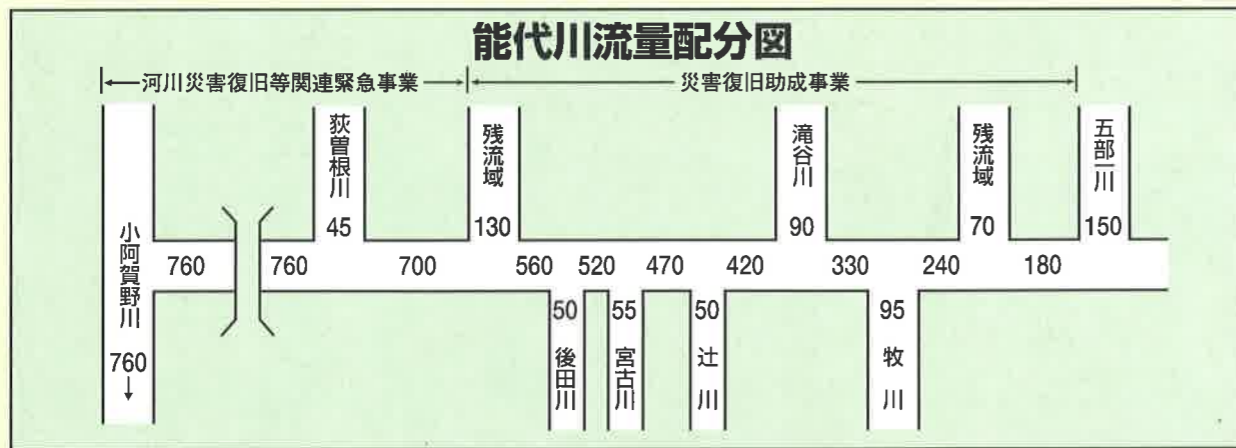
- **早期復旧**
再度災害を防止し、早急かつ緊急的な水害対策
- **地域づくりへの配慮**
安心して暮らせる地域づくりへの貢献
- **上下流一貫した災害対策**
本支川のバランスのとれた改良復旧事業と上下流一連の治水安全度の確保
- **環境への配慮**
豊かな河川環境の保全と環境に配慮した工法の導入
- **防災対策の強化**
地域住民への水害に対するソフト面での対策の実施

整備の方針

- **事業区間について河川区分(ゾーニング)を行い、各工区の特徴を生かした整備を行います。**
- **高水敷、水際部及び堤防法面を積極的に緑化し、良好な景観を創出するほか、生き物に優しい整備を行います。**
- **魚が河川内を自由に移動でき、魚がすみやすい川にするため、落差工は魚ののぼりやすい構造にします。**
- **市街地では、人々が川と親しめる整備を行います。**
- **関係市町村と協力して、浸水情報や避難情報等を記載した洪水ハザードマップの作成支援等に取り組みます。**

事業計画概要

事業名	災害復旧助成事業						河川災害復旧等関連緊急事業			
	助成全体	能代川工区	宮古川工区	滝谷川工区	辻川工区	牧川工区	復築全体	小阿賀野川工区 直轄工区	補助工区	能代川工区
全体事業費	20,519百万円	11,337百万円	3,039百万円	1,390百万円	3,163百万円	1,590百万円	27,120百万円	720百万円	10,400百万円	16,000百万円
復旧延長	12,862m	3,610m	3,010m	1,280m	3,610m	1,352m	18,680m	120m	6,360m	12,200m
流域面積	101.6km ²	101.6km ²	6.6km ²	14.7km ²	11.5km ²	18.3km ²	141.4km ²	141.4km ²		141.4km ²
計画高水流量	50~700	150~700	55	90	50	95	700~760	760		700~760
超過確率	1/28	1/28	1/28	1/28	1/28	1/28	1/28	1/28		1/28
河床勾配	1/190~1560	1/400~1560	1/200	1/245~310	1/190~350	1/210	1/1560~4000	現況		1/1560~4000
川幅	-	38.2~114.3m	9.5~15.6m	19.5~20.0m	16.6~18.4m	20.0m	-	124~307m		127~148m



新潟市新関より下流を望む



五泉市猿橋から上流を望む



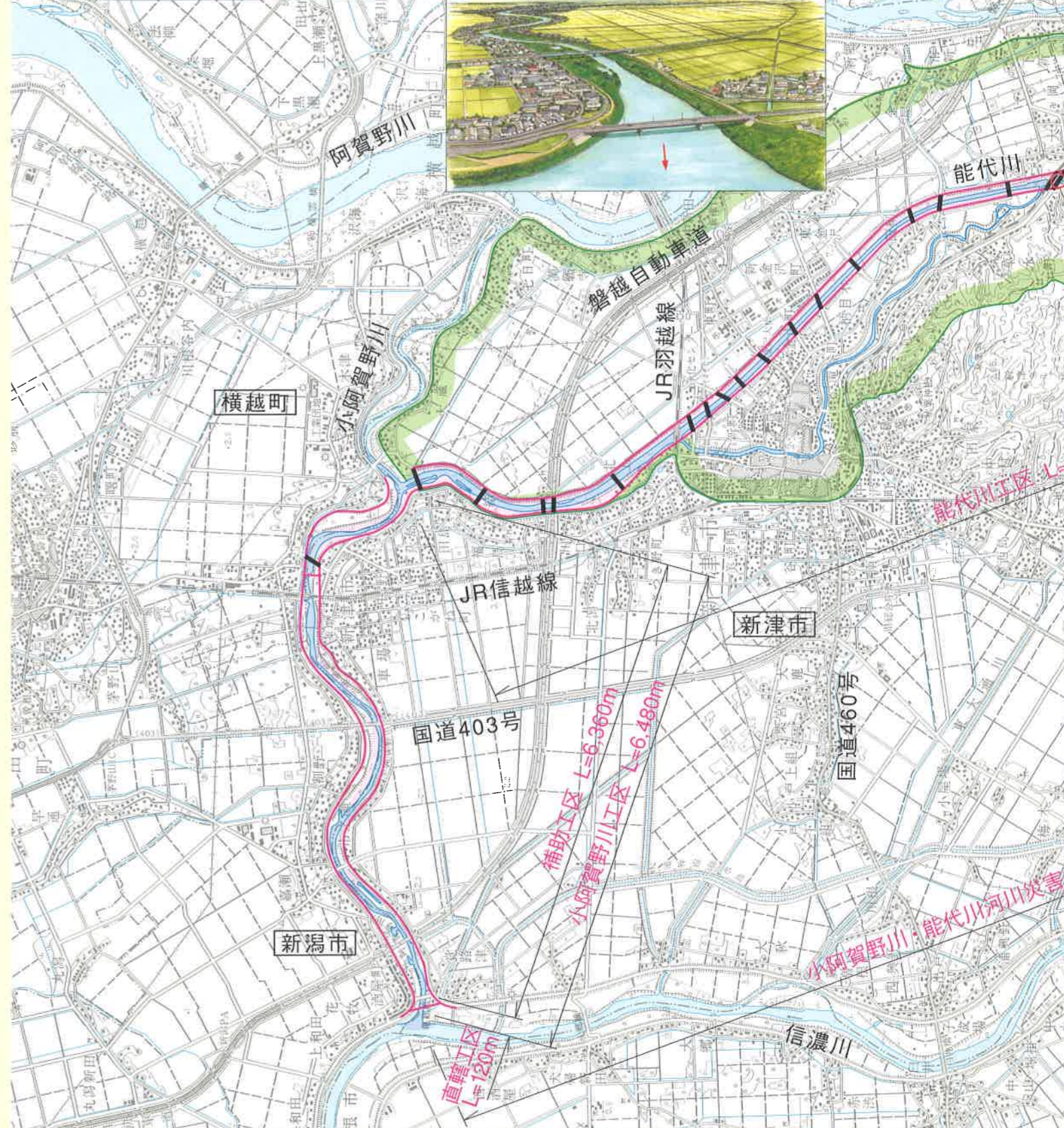
村松町笹野町より下流を望む

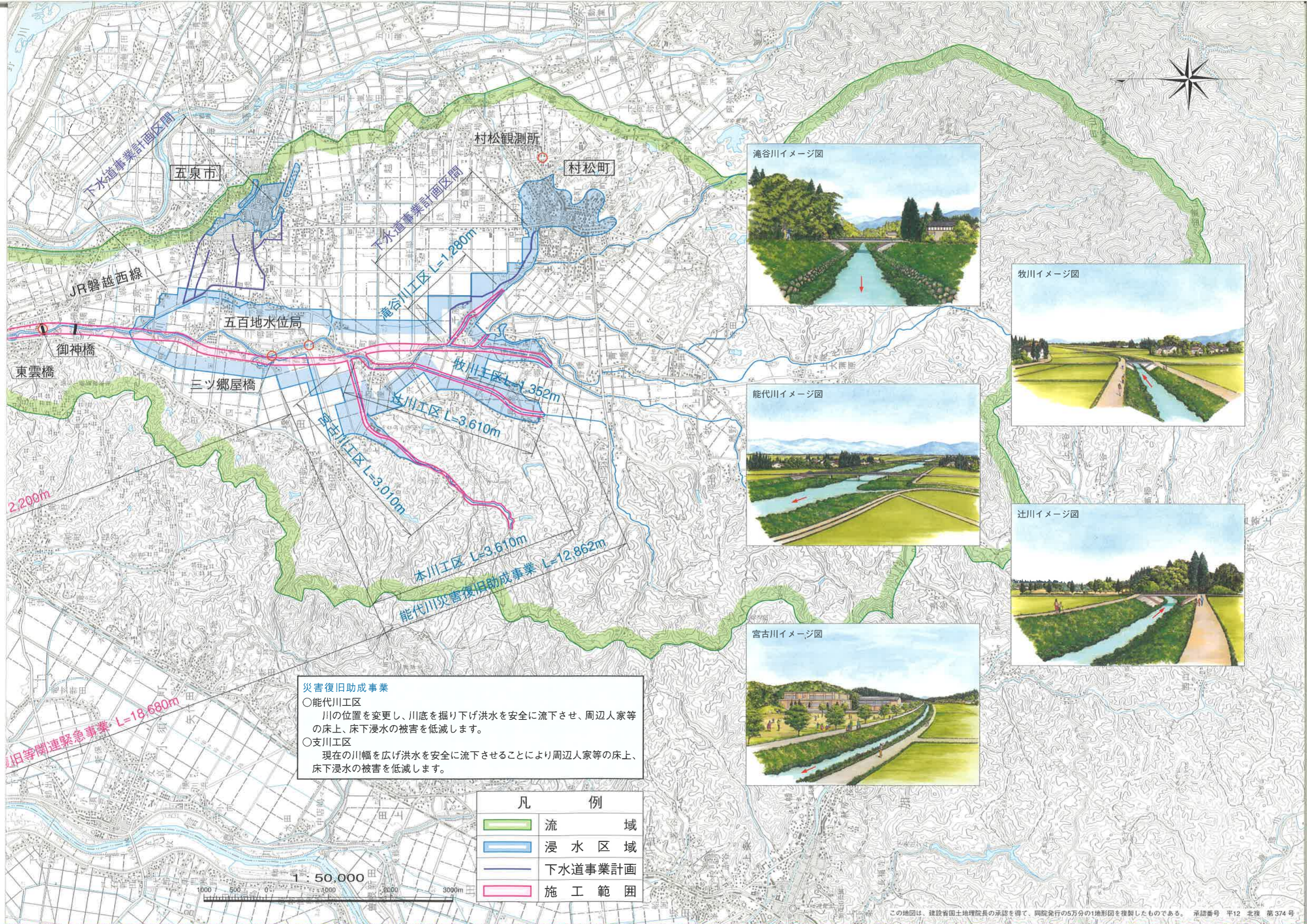


事業効果

河川災害復旧等関連緊急事業

- 小阿賀野川工区
堤防を築堤することにより上流能代川からの洪水を安全に流下させるとともに、信濃川が洪水で水位が高くなったときも周辺地域を安全に守ります。
- 能代川工区
小阿賀野川合流点から御神橋までは築堤及び高水敷部を掘削し、三ツ郷屋橋までの区間は新たに河川を掘削(バイパス化)し洪水を安全に流下させます。





災害復旧助成事業

- 能代川工区
川の位置を変更し、川底を掘り下げ洪水を安全に流下させ、周辺人家等の床上、床下浸水の被害を低減します。
- 支川工区
現在の川幅を広げ洪水を安全に流下させることにより周辺人家等の床上、床下浸水の被害を低減します。

凡 例	
	流域
	浸水区域
	下水道事業計画
	施工範囲



くじゅうくまがりかわ 九十九曲川



改修前の能代川(新津市大関・小口 昭和51年撮影)

この名称は、上流南西側の土倉地区や猿毛山方面からの山水(能代川、牧川など)と、上流南東部の白山方面から山水(主に滝谷川)が現在の五泉市能代付近で合流していましたので、その合流地点の地名である能代が河川名になったといわれています。

また「九十九曲川」の呼び名は、いまでも能代川の特徴を端的に表す通称名として時折使用されています。



改修途上の能代川(新津市大関・小口 平成7年撮影)

能代川は、その源を新潟県中蒲原郡村松町の宝蔵山(標高897m)に発し、途中で五部一川、牧川、滝谷川、辻川、宮古川、後田川及び荻曾根川を合わせ、五泉市、新津市街地を貫流し、小阿賀野川に合流する流域面積141.4km²、流路延長33.4kmの信濃川水系の河川です。俗に「九十九曲(くじゅうくまがり)川」といわれるほど屈曲が多く、出水時にたびたび氾濫し、流域住民に大きな被害を与えてきました。

能代川は昔から、上流では戸倉川、中流では笹野町川、千原川、下流では新津川などと地域の地名が呼び名にされることがありました。しかし、これらは共通して使われる名称ではなく、いまでは「能代川」の名称が定着しています。

■災害復旧助成事業

被害が激甚な場合に、災害復旧事業に併せ、被害を受けなかった区間を含め一連区間について再度災害防止のため改良工事を実施するものです。

■河川災害復旧等関連緊急事業

激甚な水害に対し、上下流一体となった抜本的な治水対策を推進するため、上流部における災害復旧等に伴う流量増に対し、下流部において集中的かつ機動的に治水対策を実施するものです。

国土交通省北陸地方整備局	〒951-8505	新潟市白山浦1-425-2	TEL025-266-1171(代表)
信濃川下流工事事務所	〒951-8153	新潟市文京町14-13	TEL025-266-7131(代表)
新潟県土木部河川管理課	〒950-8570	新潟市新光町4-1	TEL025-285-5511(代表)
新潟県土木部河川整備課	〒950-8570	新潟市新光町4-1	TEL025-285-5511(代表)
新潟県新潟土木事務所	〒951-8133	新潟市川岸町3-18-1	TEL025-231-8302(代表)
新潟県新津土木事務所	〒956-0000	新津市大字新津4524-1	TEL0250-24-7111(代表)
新潟県能代川・小阿賀野川 災害対策用地事務所	〒956-0864	新津市本町1丁目2-40	TEL0250-21-3131(代表)

